

『第八回村落年次大会の課題と要望』

会員の声を中心に

第八回村研年次大会は、十一月三・四日の二日間愛知県蒲郡で開催することに決定した前号において大会参加・発表の予定者の調査方を各会員にお願いしたが、その結果がましまりましたからここに報告いたし、大会への各会員の研究に幾分か役立ちたく思う。

本年度大会の共同討議の課題は、先年に引き続き「政治体制と村落」ということであつたが、前号通信で福武会員から「農民と政治」という問題の追求を行うことの提案があり、この点に関して各会員から多数の意見が寄せられた。

「福武会員の提案は、政治体制と村落という共通課題に対しての、**「視点」**の指摘であると思う。その意味では傾聴すべき発言」(小池基之会員ほか)であるという点が各会員の最大公約的意見として整理することができ、この場合、「**農民意識の課題**としてか**農政の課題**としてか」(飯塚博久会員)を明確に掲げるべきだという意見もあるが、「**体制面からの考察と、農民のペースナリテイの面からの考察とを併せ行う**」(山岡栄

市会員)ことを強く打ち出してみるとき、先の**「政治体制と村落」**にこたえ得るものかと思われる。

こうした課題の展開は、「かなり幅広く呼び掛け、実践活動家にも若干おいでいただく」(中野芳彦会員)ことを提案し、「学者だけの**静態的意識分析**」(同会員)だけに終止する危険性の除去をいわれるとき、たしかに**「農民と政治」**の課題が、**静態的かつ動態的**に、しかも**歴史的現実**として究明される必要性を改めて感じるものである。この意味では、福武提案の「**才五点(前号研究通信参照)**は、**実践的な緊急かつ最重要な問題**」(鈴木広会員)ということがいえましよう。

以上のように課題を展開することによつて、結果的にはより幅広く、前号研究通信で発表された「**千葉提案の意図も、その中で本当に生きる**」(鈴木広会員)といえましようし、**村研年次大会**が多くの成果を生む基盤となると思ふ。

最後に、現在までに判明した年次大会において自由題で研究発表を予定されているものを掲げておく。

○共同研究

「最近における政治動向と農民意識」

福武・蓮見・園田・山本・松原

1. 安保問題と農民

——群馬・山形両県下における事例を
通して——
園田恭一

2. 民主主義・議会主義と農民

——山形県庄内地方における農民
意識——

山本英治

「農民層の分解と村落支配の構造」

島崎 稔・安原 茂

○個別研究

「村集会の機能について(仮題)」

中島竜太郎
斎藤 吉雄

「未定」

なお、現在までにご連絡頂いた年次大会参加予定会員数は60名である(事務局記)。